

公共システムエリア

エリアの概要

現代の市場経済は民間部門と公共部門が併存する混合経済である。外部経済・不経済、不完全競争、公共財供給、情報の不備などが原因で、民間経済には市場の失敗が生じている。また、市場経済は公平な所得分配をもたらさない。公共システムエリアでは、このような市場の失敗と不平等な所得分配を矯正する公共部門の政策的な役割を社会・経済的な角度から論じ、5つの講義科目と演習を通じて総合的に学ぶ。

科目構成

科目名	概要	標準履修年次
公共経済学	市場の失敗と政府介入の経済効果について論じる。具体的には、公共料金の設定、公共財の供給について取り上げる。	2～4年
公共政策論	各国の現状、歴史的な経緯、理論分析の解説を交え各種の公共政策を論じる。	2～4年
財政学	財政制度、課税、年金、国債、公共支出などの財政学の基本テーマをやさしく講義する。	2～4年
労働経済学	賃金、雇用に関連する諸問題を労働経済学の視点から分析する方法ならびに分析例を紹介する。	2～4年
日本経済論	種々の観点から日本経済を論じ、日本の経済システムについて理解を深める。	2～4年
公共システム演習	財政システム、年金システム、雇用システム、契約システムなど現代公共システムがかかえる様々な社会経済問題を理論・実証的に学ぶ。	3～4年優先

